

のほとんどがマドリッド市内にあるギヤラリーで売られるという。作品はマドリッド美術館の中庭にもコレクションされており、市民に親しまれている。現在は英国から依頼されたホールの壁面を飾る大陶壁板の制作に余念がないという情熱を内に秘めた佳人であった。

ヴァレンシア・オレンジジで有名な常夏の国ヴァレンシア近郊マニセスは古くから陶器づくりの盛んな町で、特に十四世紀にはその最盛期をきわめたという。そのマニセスの近くにアルボラヤという小さな村があり、草原の中にポツンと小さな町工場を思わせるエンリコ・メストレのモダンな工房が建っていた。ヴァレンシア国立陶芸学校で教鞭をとっているというメストレはアトリエで幾何学的なオブジェを作っている最中であつた。彼の作品は幾何学模様と直線とあざやかな色彩の織りなすコントラストを巧みに駆使し、「人間の真理」を探求し、表現するというもので、作品に立ち向う表情、節くれだった指を力強く動かし、鋭く指先を追うその眼はまるで獲物に飛びかかる寸前のような輝きがあつた。

別棟になっている作品展示室にはオブジェはもとより、彼の描いたタブローなども並べて展示してあり、幅広い活動を見せてくれた。日本の陶芸家では浜田庄司が好きだといひ、ミロやピカソを崇拜する一九三三年生れ、マニセス陶芸学校で学び、六六年ヴァレンシアでの初個展以来、数々の榮譽に輝い

●南川三治郎 (写真家)



エレナ・コルダロは一九三二年アルゼンチン生まれ、ブエノスアイレスの陶芸学校で学び、五四年ブエノスアイレスでの初個展後、スペインに移住し……



マグダ・マルティエルのアトリエはスペインの生んだ建築の巨匠ガウディの設計するアパートメントの地下室にあつた。アトリエの広さは約十畳位、アトリエの広さは約十畳位、とろ狭し制作中の作品が……



たスペインの熱血漢であつた。ヴァレンシアからコバルト・ブルーに輝く地中海沿いにバルセロナに入る。バルセロナはカタルニヤ地方主都で文化の中心地でもあり、その昔コロンプスが出港した港町としても有名である。またここにはピカソ美術館やミロ美術館があり、カタルニヤ美術館を中心とするモントフィッチの丘にはスペイン的な情熱と自由独自の芸術的雰囲気が充満している。

マグダ・マルティエルのアトリエはスペインの生んだ建築の巨匠ガウディの設計によるアパートメントの地下室にあつた。アトリエの広さは約十畳位でところ狭しと制作中の作品が置いてあり、小さな電気炉もあつた。が、作品が大きいので作品を焼きあげる時には近くにある陶器工場の窯を借りているという。

最初はデッサンや絵を目指していたが、色を扱うよりも手を動かしていた方が自分に向いていると思ひ、バルセロナ美術裝飾学校を卒業したのち陶芸に転向したという。マルティエルは陶芸の男性的なダイナミックさにひかれ、「四角や直線を効果的に使い力を表現したい。」と語る。なぜなら自分の持つてくる力以上の力と力強さを表現できるからだという。隣の部屋にある作品展示室には足の踏み場もない程にぎつしり作品が置かれ、現在持つてくる力の限りを尽してどんどん作品を作りたいと語る新進気鋭の女性闘士である。